

受託研究 三宅村郷土資料公開・保存事業

期間：2018年7月2日～2019年2月28日（継続）

〔所員〕内田青蔵

〔客員研究員〕田上 繁

三宅島郷土資料の公開と保存のための調査、研究

田上 繁

2015年度より田上繁ゼミの調査としてはじまった三宅島郷土資料調査は、現在日本常民文化研究所の受託研究として段階的に進展し、2018年度は「三宅島のオーラルヒストリー」シリーズの2冊目を作成して、農漁業従事者の貴重な記録として残すことができた。以下に、2018年11月の調査概要を記す。

2018年度調査では、まず、2016年度に行った聞き書き調査の結果の音声のテープ起こしを、当時の聞き手を中心に校正（1次）した原稿を教育委員会の方々にお渡しし、話者による確認をしていただくための打ち合わせを行った。2016年度には、天草漁に関わって、当時海女をされていた方々にお集まりいただいた際の聞き書きも含まれている。当時、海女は、鳥羽や韓国の濟州島からもやってきていた。



写真1 三宅島郷土資料館の調査の様子

次に、資料館2階に収納されている諸資料の整理・目録化作業に移った。昨年度まで継続していた。

「七島文庫」の整理を継続し、作業は、
 ①写真撮影（表紙・冒頭頁および奥付）、
 ②目録取り（すでに作成されている「七島文庫目録」はデータ化がされていないので、新たにExcel表に入力し、分類ごとになっている整理番号に加え、通し番号を付している）を行った。

①写真撮影について：「七島文庫」は故浅沼悦太郎氏が収集した伊豆七島に関する古文書・書籍・冊子群で、古文書に関しては早稲田大学の西脇康氏による整理が行われており、詳細な目録も作成されているが、データ化することによって、今後の利用の便宜を図ることが目的である。

2018年度は、これまで手を付けていなかった、③展示されている資料の現状記録、④個々の資料の写真撮影を同時に進めた。

まず、展示室1～5までの部屋ごとの簡単なスケッチを取り、展示品に部屋ごとの通し番号を付した。その上で、展示室の展示状況を概観できるように写真を撮り、各資料の個別写真を撮影した。上記の作業は、今回の調査で終了した。

今後は、オーラルヒストリーの資料集の続刊と、「七島文庫」をはじめとした三宅島郷土資料館の資料に関する目録を順次作成したいと考えている。今回も三宅村教育委員会の加藤一則教育長をはじめ、多くの方々にご助力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

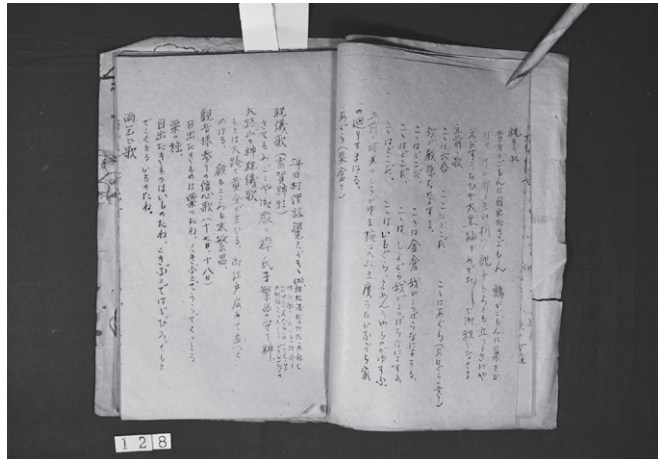


写真2 七島文庫冊子類の記録写真



写真3 収蔵民具の展示



写真4 七島文庫の整理

■ 2018年度の活動

- 三宅島郷土資料館資料目録作成作業 2018年11月23日～26日
 三宅島郷土資料館 田上繁・越智信也、小野寺佑紀・佐藤夏美・山室陸（院生）